

**(社)東洋音楽学会関西支部 支部だより**  
**Newsletter of the Kansai Chapter, Society for Research in Asiatic Music**  
**第 3 9 号(2001/01/15)**

**定例研究会のご案内**

第 202 回定例研究会

と き : 2001 年 2 月 17 日 (土) 14:00 ~ 17:00

と ころ : 国立民族学博物館 第 1 演習室

研究発表

(1) 「能楽における〈位〉をめぐって」(仮題)

北見真智子(神戸大学大学院)

(2) 「歌の意味—三匹獅子舞の歌詞をめぐって—」

笹原亮二(国立民族学博物館)

会場への交通案内

・ 阪急茨木市駅・JR 茨木駅・北大阪急行千里中央駅よりバスで日本庭園前下車  
徒歩約 10 分

・ 大阪モノレールで万博記念公園駅、または公園東口駅下車 徒歩約 10 分  
(万博記念公園駅から徒歩の場合は自然文化園の通行料 150 円が必要です)

民博北側通用口で、「東洋音楽学会定例研究会出席」と告げてご入館ください。

---

**(社)東洋音楽学会関西支部の事務局変更のお知らせ**

今年度より関西支部の事務局が下記に変更いたしました。

〒 580-0033 松原市天美南 1-108-1 阪南大学南キャンパス 櫻井研究室気付

e-mail: sakurait@hannan-u.ac.jp

2000年9月23日(土・祭) 国立民族学博物館第6セミナー室

(国立民族学博物館共同研究会「民族音楽学の課題と方法」と合同)

研究発表 小川博(関西大学) 「持続するノリ～新野の盆踊りをめぐって」

長野県阿南町新野。小川氏が学生時代から20年以上にわたって通い続け、ついに家まで建ててしまった土地である。もちろん、氏がそれほどまでに新野に惚れ込んだ理由は「盆踊り」にある。

発表は1.「新野の盆踊り」、2.「持続するノリと踊りの快樂」、3.「踊りのクライマックス」、4.「近代化された盆踊り」、5.「研究(記述)する者の立場」の5項目に添って行われた。

まず、氏は1.で新野の盆踊りは盆唄に合わせて夜の9時から翌朝の6時頃まで休みなく踊られる(氏はこの状態を「持続するノリ」という概念で表している)など、盆踊りの概略を説明し、2.では、さらに個々の踊りのスタイル、メロディー、歌詞の内容について詳しく報告した。踊りや歌詞はそれぞれ多様な内容を持ち、その場の雰囲気に応じて自在に選択され、演じられるが、参加者の総体におけるある種の暗黙の法則に則って行われ、結果として、踊りは大きく逸脱することなく、しかも飽きられることなく「ノリが持続される」という。3.では、「能登」という踊りが動きの激しさの点で他と異なることを強調し、この踊りが盆踊りの最後のクライマックスであると同時に、死霊あるいは神をあのに送り返す「神送り」へと直結する重要な部分と位置づけた。4.では、柳田国男の指導によって踊りが現在の七種類に整理されたこと、あるいは、フォークダンス連盟の指導によって、それ以前は片手で踊られていたスタイルが両手をそろえた振りに変わったことなど、近代になってからの変化のいくつかを紹介された。5.については、この日の報告ではとりわけ斬新な理論が提示されたわけではなかったが、近代における変化、あるいはさらに最近におけるいくつかの現代的変化を目撃しながら、声高に「旧守」を押し付けるのではなく、あくまで新野の人々のなすがままの踊りの形を見守っていきたい、あるいは、その中に身をおいて「踊り続けていきたい」という、たいへん誠実で謙虚な姿勢が、氏の言説のはしほしから窺われた。

小川氏の発表の後、二人のコメンテーターがそれぞれの立場から意見を述べた。吉川周平氏(徳島文理大学)は民俗芸能研究の立場から、氏がこれまでに調査した姫島の盆踊りの事例などをまじえながら、盆踊りの身体動作のかたちを死霊の葬送儀礼としての文脈からコメントした。小泉恭子氏(兵庫教育大学)は、イギリスのカルチュラル・スタディーズの視点をもとに、盆踊りとイギリスのクラブカルチャーを比較し、その接点と相違点を指摘した。

(1) 研究発表

石見神楽の現在

藤原宏夫(兵庫教育大学連合大学院)

上鴨川住吉神社神事舞について—資料(文献および映像)紹介を中心に

水野信男(兵庫教育大学)

(2) 上鴨川住吉神社神事舞の見学

今回は兵庫教育大学の所在地である社町の上鴨川神事舞見学を組み込んだために、アクセスも悪く金沢大会直前の週日という制約があったが、念願の見学ができる絶好の機会でもあり友人達を誘って東京から馳せ参じた。

藤原氏の発表は、自身も演技者である石見神楽の歴史と現状紹介であった。現在日本で最も元気がよい民俗芸能の一つである石見地方の神楽では、多くの団体が式年祭のほかに年間数十回の舞台出演をこなし、子供達も予備軍として(時には子供神楽の主演として)、大人と共に活動しているという。基本の動きは保持しながら演出や衣装に大胆な新機軸を取り入れ大いに観客受けしている中国地方の神楽は、民俗芸能伝承の一つのあり方として注目されよう。

一方上鴨川神事舞は全く対照的に、厳格かつ複雑な宮座組織に支えられた地味な中世芸能である。平安末期の『年中行事絵巻』にも登場する王の舞(リオンサン舞)・獅子舞・田楽など一連の芸能プラス猿楽の古態を伝える翁舞という、研究者にとってはきわめて貴重な芸能展示であるこの神事は、毎年 10 月 4・5 日若者達によって演じられる。数々の行事や芸能の詳細は、社町発行の立派な報告書(樋口昭氏による採譜を含む)と、平凡社と日本ビクターによる映像記録『大系日本歴史と芸能第 7 巻』に譲るとして、以下現地での私のささやかな「発見」を記す。

夕食後移動した神社境内の中央には巨大な焚き火がたかれ、風の無い夜空に高く高く舞い上がる炎からは火の粉が傍らの舞堂のわら屋根に降り注いでいた。人々はあまりの熱さに後ずさりをしたが、その斎灯に向ってリオンサン舞は舞われるのであった。この熱さも若者に課せられた試練なのであろう。前日深夜まで若者達の演技を照らしていた焚き火がまだくすぶる中、翌日もさまざまな芸能が午後まで繰り広げられた。大勢のカメラマンが帰り支度をするのと入れ替わりに、それまで周囲でおしゃべりに興じていた地元のおばさんたちが舞堂の前に集まってきた。お目当ては子供相撲であった。やがて境内は空袋片手の老若男女でいっぱいになり、大歓声のうちに大量の紅白餅が撒かれて散会となった。

地区の長男に小学校入学の頃から課せられる数々の役割を、今の担い手たちはどのように受けとめているのだろうか。一方祭を締めくくる相撲と餅撒きは宮座に加入できない次三男たちの担当というのも面白かった。

## 関西支部からのお知らせ

●**役員交代**—今年度より関西支部の役員が交代しました。新理事・参事は下記のとおりです(敬称略)。任期は2年間です。

理事：櫻井哲男(支部長・機関誌)、月溪恒子(総務・経理)、寺田吉孝(例会・広報)  
参事：上野正章(例会・広報)、北見真智子(例会・広報)、寺内直子(例会・広報)、  
福岡まどか(例会・広報)、藤田隆則(例会・広報)、渡辺浩子(例会・広報)、  
薛羅軍(総務)

## ●**関西支部定例研究会への発表申し込み方法について**

関西支部では、定例研究会での会員相互の活発な活動を期待しています。研究発表等は下記の宛先にお申し込みください。その際、発表の種別(研究発表、資料紹介、研究演奏、調査報告など)、題目、使用機器、発表希望月、所属、氏名、連絡先を明記してください。

関西支部定例研究会発表申し込み先

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1

国立民族学博物館

寺田吉孝(例会・広報担当理事)研究室気付

e-mail: terada@jdc.minpaku.ac.jp

## ●**入会申し込み方法・住所の変更について**

入会ご希望の方は80円分の郵便切手を同封し、下記の学会本部事務所へ入会案内・申し込み用紙をご請求ください。住所等の変更につきましても同事務所までお知らせください(関西支部事務局ではお取り扱いしておりません)。

〒110-0001 台東区谷中 5-9-25 第2八光ハウス 201号

(社)東洋音楽学会

Tel 03-3823-5173 Fax 03-3823-5174 e-mail: LEN03210@nifty.ne.jp

---

## (社)東洋音楽学会関西支部

〒580-0033 松原市天美南 1-108-1 阪南大学南キャンパス 櫻井研究室気付

e-mail: sakurait@hannan-u.ac.jp